

バイスリープロジェクト株式会社



代表取締役
菅野 直氏

●企業の概要

企業名：バイスリープロジェクト株式会社

代表者：代表取締役 菅野 直

住所：宮城県仙台市泉区長命ヶ丘4丁目
15-22

設立年：1987年

業種：ソフトウェア業

資本金：10百万円

従業員数：30名

●事業の概要

当社は、主に組込みシステムや計測・試験システム等のソフトウェア開発に加え、ハードウェア開発まで一貫して取り組める技術体制を確立している。これまで目視検査に頼られてきた自動車の車体の外観検査について、機械での自動化を可能とする表面欠陥検査装置「SSMM-1R」を開発、業界初の製品により新規事業の展開を図る。

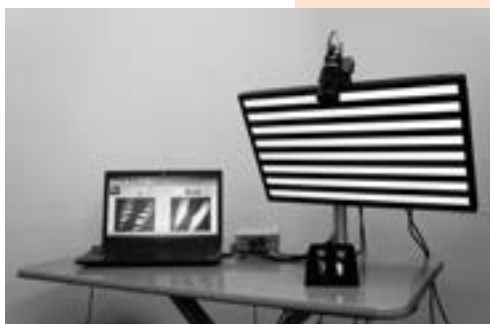


本社



「ものづくり日本大賞」優秀賞

目視検査の自動化装置「SSMM-1R」を開発、 業界初の技術で新規事業を展開



「SSMM-1R」



ロボットアームへの搭載例



展示会の様子

●受賞の理由

自動車の車体やメッキされたエンブレムなどの外観検査は、いまだに自動化されず検査員による目視検査が行われているため、ヒューマンエラーの発生や、検査員毎の判定基準の相違の発生、経験に長けた人材の確保の難しさといった問題が生じる。

当社が開発した表面欠陥検査装置「SSMM-1R」は、機械による自動での外観検査を実現した装置であり、検査対象にスリットを表示した液晶画面を写し込んだ画像をカメラで撮影することで、鏡面反射による欠陥識別等の問題を解決することに業界で初めて成功した製品である。その性能は、自動車のエンブレム検査において、目視検査に対し工程能力が2倍になり、検査漏れによる欠陥品の流出を防止することができるなど、その技術力と開発力は高く評価できる。

本製品は既に販売を開始しており、大手自動車メーカーや自動車部品メーカーをはじめ、自動車関連企業への販売実績もある。また、経済産業省の支援事業である「産学戦略的基盤技術高度化支援事業」の採択を受け、産学官金との連携により現在の性能を更に向上させるべく、3年計画で開発を開始するなど、本事業に対する今後の成長性も大いに期待される。

また本製品は、展示会や技術専門誌および技術サイトなどを通して塗装欠陥を検出する技術として定着しており、国内市場規模もニッチであるため大手同業他社の参入する可能性も低く、競合先は少ない。さらに目視検査の自動化は、自動車だけではなく他分野への応用も期待できる技術であり、当社の独自の事業展開が期待できる。

2017年に「みやぎ優れMONO認定製品」に選出されたほか、2018年には「第7回ものづくり日本大賞」優秀賞を受賞しており、当社が創業当初から培ってきた技術の蓄積と、横断的な技術分野の開発体制が整備されていることが裏付けられている。

本製品である「SSMM-1R」の独創的な発想と、これから将来的に発展する可能性を秘めたその性能から、当社は今後も成長が期待できる企業である。